

秋空に地域まとまり大歓声



毎年、恒例となりました大運動会が小学生の竜丘一周聖火リレーを皮切りに始まり、

「体育の日」でもあり、日頃の運動不足解消にしっかりと準備運動をした後、小学生、保育園児のかけっこへとプログラムが進んでいきました。

最初の採点種目は「メドレーリレー」で、麻袋を履いて跳ねながら半周、なわとびで半周、樽を転がしながら半周、三人四脚で半周ひしゃくで水をすくい一升ビン一杯にする満水リレー、ボールをつけて半周、バドミントンラケットにソフトバレーボールを載せて半周最後に二人で二トン車用のタイヤに砂袋を載せて一周する競技でした。

朝一番の分館対抗種目だったのですが、百四十五名の選手が参加し、競技する側も応援する側も手に汗にぎる種目となり、常に順位が入れかわり、最後まで結果が予想できない大熱戦でした。

競技ナンバー十一番の「化粧直し」では、小学生以上誰でも参加できる大福ひろいで、一位から三位までの全員の顔写真を撮り、ユニークな顔の人に投票してもらったフォトコンテストにもなっており、見事一位になった方は、男性桐林の林たくやくん、女性時又の加藤あいさんでした。

そして午前中最後の採点種目である「オールスターリレー」は、各分館の小学生から五十代までの十三名が健脚を競いました。分館ごと応援団にも熱が入り、大勢の観客が見守る中行われました。結果は一位駄科、二位時又、三位長野原、四位桐林、五位上川路でした。

この後昼食をとる間、明星学園による仮装劇が行われ、また青少年ク

去る十月十日、汗ばむ程の日差しの下で、竜丘市民運動会が、例年になく多くの参加があり、終日盛り上がり、熱戦が展開されました。

も応援する側も手に汗にぎる種目となり、常に順位が入れかわり、最後まで結果が予想できない大熱戦でした。

午後の種目は、就学前の幼児による「風車ひろい」で、よちよち歩きの子どもたちがお母さんに手をひかれ風車をひろった顔はなんともかわいらしいものでした。

競技ナンバー二十番目は今年新しい種目で「幸運は誰の手に」でした。全員が参加者となり大会長が引く球の色を予測するというのも、徐々に参加者が減って行く中、最後に残った幸運者は駄科の木下勝彦さんでした。

予定通り競技が進められ今年度大会の締め括りは、「年次むかで」五人一組による小学生から五十代の各男女でむかでを作り競いました。五人で足をそろえて



発行所 飯田市竜丘公民館
編集人 竜丘公民館広報委員会
印刷所 龍共印刷株式会社
飯田市上郷黒田 ☎22-5353

人口	6,856人
男子	3,373人
女子	3,483人
世帯数	2,073戸
(11年11月末現在)	



新竜丘公民館建設に向けて

設備充実のための寄付積立が始まる

新竜丘公民館建設に向けて、地域の皆さんに寄付をお願いすることになり、十月から各戸一カ月一千五百円を十八カ月で、平成十三年三月までに二万七千円を積立ることとなりました。

このことについて、大方の賛同が得られたことは喜ばしいことですが、地区で話題となった主な二点について、建設委員会にその立場を聞いてみました。

一つは「寄付集金があまりに唐突である」こと。

平成五年に地域の方々から

ら建設準備委員会に、現在の公民館は、駐車場が狭くまた、施設も将来の公民館の役割を考えると、場所を移して、新しく公民館建設を必要であるという強い要望が出ました。

そこで、早速、自治会を中心に建設委員会を発足させ、地域の要望がどのようなところにあるかアンケートを実施しました。

その結果、場所や規模・内容について大方の方向を得たので、次の内容で市長宛に要望書を提出しました。場所は竜丘小学校付近で面積規模は六千㎡以上として、施設内容は、地元の意向を尊重してほしいとの三点であります。

要望の実現にむけて、建設委員会は再三に亘って交渉を重ねたが、市の回答を得るのに時間を要しました。その上に大事なことは、地権者の協力を頂くことでした。

幸い要望面積を上回る土地と地権者の協力を得ることができました。

このことが決まった上で、設備充実のための資金調達を考へるのが適当であると判断をして、今般、皆さんに寄付をお願いすることになりました。この間の事情について、十分ご察察頂きたいとのことでした。

二点目は、「寄付金の支出」についてであります。建設面積は、現在、市当局へ近隣の公民館以上の内容になるように要望しているところですが、近隣の公民館では内容をよくする為、設備等に相当額を寄付して

いる実情からみて、竜丘としては七千万円は少なくとも用意することが必要であると考へたようです。

建設委員会では、地元の強い熱意を示して、当局に要求を強力に推し進めていきます。決して贅沢を望むものではなく、地域の皆さんの公民館活動が十分できることを願って熟考した上の金額であり、ぜひご理解を願いたいとのことでした。

いよいよ建設予定地が決まったので、平成十二年度末の完成に向けて急速に進展して行くことと思われま

その時、建設委員会は、建設部会、施設部会、会の新公民館の基本的考えを聞く、次のようになっていきます。

(1)竜丘の特色
竜丘らしさを生かし

いさつの中に「各分館ごとの団結と友情が見られまし」とあり、日頃の運動不足、家族のだんらん、また分館のまとまりもはかられたい。



新公民館建設予定地 (前ノ原地籍)

運動会を推進された役員の方々、大変ご苦労様でした。

総合結果は一位桐林、二位上川路、三位長野原、四位駄科、五位時又でした。

た公民館
(2)公民館、図書館、支所の複合施設として相互連携をもった公民館
(3)人口増加地域とし、また飯田市南部方面のセンター的機能を併せもつ、長期的展望に立った公民館
(4)グループ、サークル、学習活動等の育成、援助機能を備えた公民館
(5)明るく、温かな庶民的イメージを備えた公民館
(6)身障者・高齢者・子どもなど誰にもやさしい使いやすい公民館
竜丘の皆さんが、地域の発展のために、新公民館建設に向けて、深い理解をもつ、強い熱意を結集していきたいものです。

あるTV番組で、これからのサラリーマン像について、放映していました。今までみたいに、年功序列に賃金を上げていくのではなく、どれだけ利益を上げたか、会社に貢献したかで賃金を決めていくこの事。努力ではなく、成果が基準であり、自分の能力にみあった分だけ賃金がもらえるのだそう。

なるほどプロ野球みたいになり、競争が激しくなると思う。でも「働く」とは能力や点数だけで評価されることなのでしょう。

人類の起源に遡ると、働くことが人間らしさをつくってきたこととあります。例えば、『言葉』。集団でマンモスの狩猟の時、お互いの行動を調整する為に、合図が必要になり、その時視覚の他に聴覚に訴える音声が生まれる。始めは動物みたいにギャーという声が、舌や唇を使って発音音になる。うまく狩猟するには、集団の中での話し合いが必要になり、いろいろな言葉が生まれ同時に、言葉聞き分ける力も付いていったのである。

現代、私達は多くの人々と共に働いています。人間らしく文化的な生活できる社会をつくらなければならない、労働が原動力です。日本国憲法第二十四条では、すべての国民は、勤労の権利を有し、義務を負うと謳っています。そう考えれば働くことは人間として、貴いことなのです。

今日のような、市場開放と規制緩和による競争激化を伴う経済性も大事でしょうが、働くことの喜びを多くの人が得られる社会の方が、いいのではないのでしょうか。

新しい企画が盛り沢山 ～賑わいあふれた文化祭～

●●● 晴天に恵まれ、平成十一年度竜丘地区文化祭が、
●●● 十一月十三・十四日の両日、竜丘小学校を主催
●●● 場に、新しい企画をとり入れて行われました。 ●●●

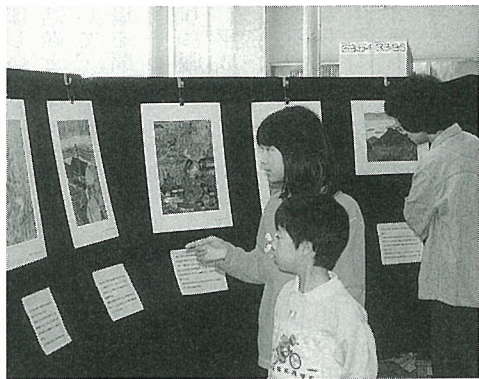
当日は、工夫を凝らした開会セレモニーから始まり、例年とは違い、参画団体の方がテープカットを行い、文化祭に向けての取り組みや抱負をコメントし、雰囲気盛り上がり、開幕式となりました。展示コーナーでは、各種団体・公民館の活動のあゆみや成果、また、趣味など創意工夫されていました。そんな中、今年初めて環境衛生組合、飯田昆虫友の会の二団体が出品され、活動のアピールがされていました。特別企画展『自由画の黎明』では、蔵の中に保存してある竜丘の自由画百三十五点の中から、特徴的な七点を今回初めて展示しました。当時の子どもの感性の豊かさやかわれ、とても子どもの作品とは思えない作品ばかりでした。参観された人々は、全国に名をなした自由画教育に驚嘆しておりました。毎年九月に行われていた育成会主催の『ウォークラリー』も、文化祭の中で初めて行われました。到着後には古代食が振る舞われ、



展示品の数々

地区全体として盛り上げる形ができ、参加した子どもたちは大喜びでした。安協でも初めての試みとして、交通事故の再現をダミー人形を使用して行いました。時速五十二キロメートルの車に引かれた人形は、二十メートルも飛ばされたこの衝撃の大きさは、みんなの驚きを一段と大きくしました。また、時間設定が子どもたちの多く集まる時間であったので、交通事故の恐ろしさを子どもたちに伝えることもできました。喫茶コーナーは、今まで担当していた団体に代わって新しい方々で始められました。それは、「喫茶が無くなると淋しい」と思う数人の方の口こみで人々が集まり、有志によって行われました。メニューも「素朴だけれども、こだわりをもって気持ち届けたい」と、自分達で企画し手作りで取組んでいました。その輪の中にお母さんたちに混じって中学生の子どもも数人いて、文化祭を若い力が盛り

上げていた事はとても印象的でした。今年度の文化祭は、新しい試み、取組みが数多くあった点が特徴的でした。文化祭を地区民全体で盛り上げ、その輪の中に若い力を集める事ができる、この様な場所はとても貴重なものです。来年度の文化祭でもこの様に



竜丘の自由画

竜丘バレーボール連盟 二十周年を迎える

今年、竜丘バレーボール連盟が二十周年を迎えました。結果は念大会が行われ、記念誌の発行も進められています。八月一日に行われた記念大会では、まぐろ親会、二十周年連続参加者十四名の方に記念品の贈呈、全員に参加賞が渡され、レクリエーション等で和やかに行われました。この連盟は、昭和五十五年四月に竜丘バレーボール



記念大会での選手宣誓

新川の水は大丈夫？

市民大学講座 第二講

今年度で二十一回を数える竜丘地区市民大学講座の第二講が、去る十月十七日に、国道一五一号新川橋下の川沿いを会場に開催されました。今回は、親子で学ぶ環境講座と題し「竜丘に棲む水棲昆虫を取って調べよう」をテーマに行われました。



この虫なんだ

秋晴れの下、親子ら約三十人が集まり、手網をつかい冷たい川に入り、石の下やヨシの中等など川底をすくって水棲昆虫の採集を始めると、カゲロウ、トビゲラやサワガニが捕れ、しだいに川のおくの方まで、親子の大きな歓声が広がっていった。

いつまでもお元気で 竜丘敬老会開催される

九月十五日の敬老の日に竜丘地区敬老会が、小学校体育館で開催されました。台風の影響であいにくの天候でしたが、竜丘地区内の七十五歳以上の方二百三十三人が参加されました。今年には「参加者の交流とふれあいの輪を広げよう」ということで、主催者係員も含めて全員が参加する時間が設けられ、例年より充実した敬老会となりました。午前「世代交流」の間では、小学生の作文発表と保育園児のふれあい遊びが行われました。竜丘保育園、時又保育園の合同発表では園児たちがお年寄りの席の中に入り、歌を披露した後、小さい手で全員の「おじいさん、おばあさん」の肩をたたきました。さらに、手



敬老会での交流の様子

日頃より、竜丘地区交通安全会活動に対し、深いご理解と協力を賜り心から感謝申し上げます。当地区では五年六ヶ月、交通死亡事故がありませんでしたが、七月三十一日、二十四歳の若者の飲酒運転による死亡事故があり、死亡した方は、桐林の七十一歳の男性であります。この死亡事故を謙虚に受けとめて、飯田警察署に、しっかりと取締をしてくれるようお願いしたところで、

交通安全 あなたが主演

竜丘地区交通安全会長 北林 正直



一人並み作戦、広報活動を推進し、交通事故防止を訴えているところです。夜間は歩行者が、ドライパーから見落とされる危険は絶対しない。き換えで三年になってしまいが、十一月一日から施行となりました。自動車を運転する前に、携帯電話の電源を切っておく。地区内から一件でも交通事故が減ることを願って、私たちが交通安全意識を高揚するため頑張ります。

性が高くなり、身を守るため目立つ服装や反射材を活用してください。シートベルト未着用で検挙されると、五年のゴールドカードの免許証が次の書道法の一部改正により、携帯電話などの使用制限が、十一月一日から施行となりました。自動車を運転する前に、携帯電話の電源を切っておく。地区内から一件でも交通事故が減ることを願って、私たちが交通安全意識を高揚するため頑張ります。